令和７年度　授業改善推進プラン＜美術科＞

大田区立大森第十中学校

○美術科における令和７年度授業改善プランの検証

■取り組みにおける成果

今年度は、鑑賞カードや授業振り返りカードをタブレットによるオクリンクプラスを使用し、生徒に入力の形で提出をさせた。時間のない中でも毎時間振り返りを行い、作品につなげることで、めあてに更に迫ることができていた。意識しながら授業に取り組み集中力も身についてきた。

また、図案を考えるにあたり、タブレットを使用したことで生徒の明確なイメージの構築につながった。作品完成時には完成写真を添えた振り返りをクラス内で共有も行い作品の相互鑑賞も行えるようにできたのは良かった。

■今後の課題

観点①≪知識・技能≫

課題→色彩学や構成学、材料道具に適した方法を意識して使用し安全・安心かつ独自の工夫を加えたり、振り返りの共有することにより実際の作品に反映させたりする。

→生徒同士の関わり合いを増やし、グループで共同して制作したり教えあったりする場を昨年度より多く作って生徒間の響き合いを大切にさせる。

観点②≪思考・判断・表現≫

課題→図案考案に時間がかかり、実際に制作する時間が足りなくなることが課題である。

→イメージを早く構築し、制作時での試行錯誤に時間をかけさせる＝より作品内容が深まるようになげかける。

観点③≪主体的に学習に取り組む態度≫

課題→自己表現から、自己実現に向け、意欲的に制作にとりかかさせることが重要である。

→自分と向き合い、作品と向き合い、自己表現から自己実現へ、その結果を文章化し、意識して次回の授業につなげ、実際の生活にも生かせるようにしていく。

○美術科における観点別の分析

■「知識・技能」

・実技教科の要である個々に適した表現方法をそれぞれの個性に合わせて作品に生かすことができるように導いていく。鑑賞を通して表現の幅を広げられるようにする。

■「思考・判断・表現」

・自分のイメージを図案化するのには慣れてきた。
・身に付けた知識を応用し、表現できる生徒が増えてきた。
・タブレットを適正に使用し（イラストや図形でなく写真を参考資料とする）、資料をもとに考える力を育む。
・身近なものをよく見て「ひらめき」が備わっていくように随時投げかけをする。

■「主体的に学習に取り組む態度」

・タブレットでの振り返りカードの提出により、生徒間同士で振り返りの共有を行わせることで他者の考え、目線も捉えつつ、表現活動が行えるようにする。制作完成時に写真も添えて提出することでさらに感覚的に個々の良さを感じさせるように導く。

○検証に基づいた授業改善のポイント

・引き続き生徒の実態と社会変容に目を向け、ICT の効果的な使用で、よりわかりやすく効果的に生徒主体の授業を組み立てる。生徒同士が関わり合うことで学び合う場面を多く作り出していく。

１　技能が苦手とされる領域の克服
→資料集や教科書で適宜技術の細かな指導をピンポイントで行う。
→実演を取り入れる、書画カメラやパワーポイントの効果的な視覚表示等でとりこぼしの生徒を作らない。

２　イメージ力や表現力の定着
→いいものを見る視点、選ぶ視点とその収集
→隔週アート等での作品を見る視点と作品が選ばれ文化遺産として残されてきた理由等にも目を向けて自己の作品につなげていく。身近ないいものに目を向け、意識してスクラップする等投げかける。それらを参考にして作品につなげる。

３　主体的な創造活動の充実
→どのような題材においても自己表現豊かに楽しみながら制作活動ができるように促す。
→豊かな自己表現が豊かな生活につながっていくような授業展開を考える。
→生徒同士が関わり合い、作品を見合い、影響を与え合いながら個々の作品の幅を広げていく。

○美術科の授業改善策

■ポイント１について

作品のもつ造形的要素による印象や効果の違いを比較したり、実演指導を個々に取り入れて実際に試してみたりする学習活動により、理解度や技術の習得を図る。

また、授業ごとに工夫した点や進度、次の授業の目標などを記入した制作記録の記入により、生徒が見通しをもって表現活動しているかの確認や、制作進度を把握することで、結果だけでなく制作過程を評価することができる。

第１学年…小学校での学習内容の流れを踏まえ、材料や用具の基本的な使い方の反復練習を増やす。
第２学年…意図に応じた表現方法ができるよう、制作内容を確認しながら定着度を把握する。
第３学年…画材や技法等、練習を繰り返す中で応用力や造形性を身に付けさせる。

■ポイント２について

形や色彩などの特徴に意識を向けて考えさせ、アイデアスケッチや言葉などで考えを整理する活動を取り入れる。

また、生徒が表現方法を選択したり、試行錯誤したりしながら創意工夫する場面を意図的に位置づける。これらにより生徒がどのように思考・判断・表現したか、その過程を読み取る。

第１学年…自己の作品イメージを明確にしやすくする教材を工夫し、活用させる。
第２学年…素材や技法の特性を生かした発想表現ができるよう、新しい題材を取り入れる。
第３学年…自己表現のためのイメージ資料収集を充実させ、タブレットなども活用する。

■ポイント３について

授業中の机間指導による観察、問いかけ、制作記録などから、創造活動への主体的な取り組みを読み取る。

第１学年…図工から美術の表現領域『絵画・彫刻 』『デザイン・工芸』への関連やステップアップを示し、学習段差を減らす。
第２学年…表現領域を絞って制作時間を確保し、表現活動を深めさせていく。
第３学年…作品の数を限定して、集中して制作させることで完成度を上げさせる。